

令和6年度 羽曳野市総合基本計画 市民ワーキング会議(報告)

【ワーキングの目的】 地域課題の解決に向けた具体的なプロジェクトを、市民から募集する

■第1回市民ワーキング

日 時:2025 年 1 月 25 日(土)14~16 時

場 所:羽曳野市役所会議室

参加者:30 名



①市民ワーキングの概要

第1回市民ワーキングは、グラフィックレコーディングにより地域の課題、今後取組んでいくべきことについて視覚化。

<プログラム>

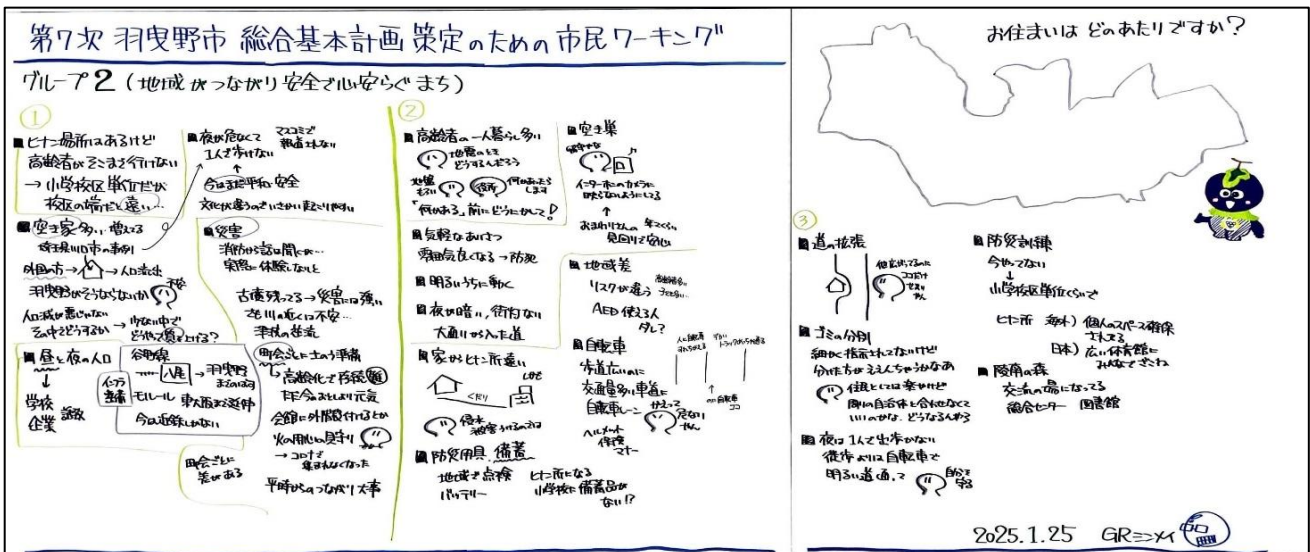
No.	内容
1.	地域課題の共有 ✓ 人口減少が今後も続いていくことが想定され、減少することを前提とした議論を行うことを共有 ➢ 人口が減少する中で、まちの活性化に向けて必要と思われる具体的な取組み ✓ 市民アンケートより、市民の満足度が低く重要度が高いと認識している施策を提示する ✓ 「重要なまちづくり」として回答されているもののうち、まちづくりの担い手として「市民が主体的に進めるべき」、「行政・市民・事業者が一緒に進めるべき」と回答された割合が高いものをピックアップする
2.	アイデアソン ✓ 着席している場所のテーマで、課題解決に向けて取組むべき内容を出し合う ✓ テーマは現行計画の分類から「7. 市民とともに築く自立したまち」を除いた 6 テーマ ✓ 最初の 5 分間は個人ワークとして付箋に書き出し、残り 20 分間でグループ内にて意見交換 ✓ まずはたくさんの意見を出すことが目的 ✓ 出た意見はグラフィックレコーダーがビジュアル化 ※その後、関心がある他のテーマのテーブルにそれぞれ移動し、アイデアソンを実施(計3回)
3.	共有に向けたまとめ ✓ 3回のアイデアソンの内、最も面白かった(興味を持った)テーマのテーブルへ移動し、発表準備 ✓ 発表者を決める(1 名でも複数名でもよい)
4.	意見交換 ✓ グラフィックレコーディングでまとめた紙面をもとに発表

②第1回ワーキング結果の取りまとめ

グループ1 快適でうるおいのある住みよいまち



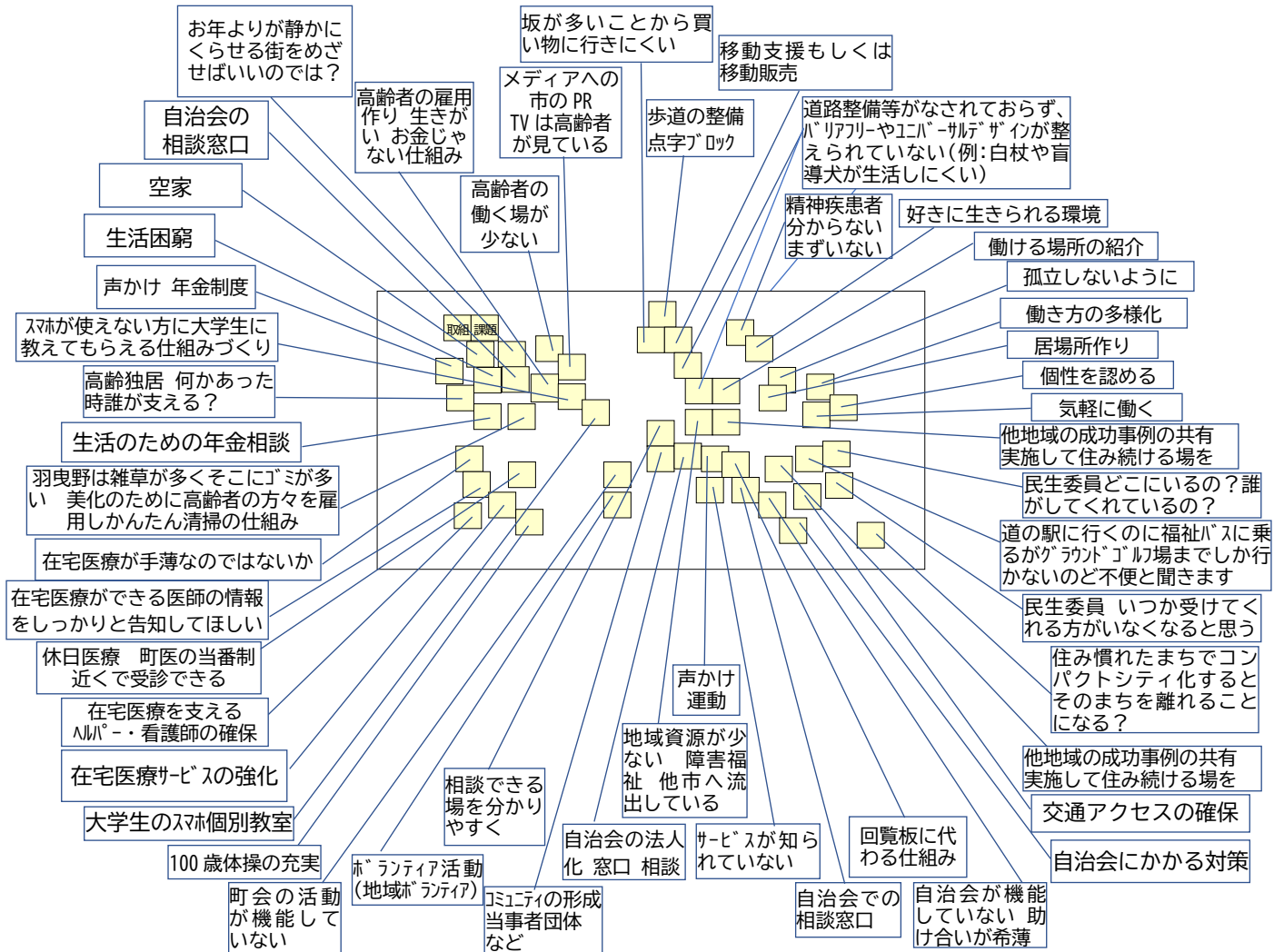
グループ2 地域がつながり安全で心安らぐまち



グループ3 とともに支え合い健やかに暮らせるまち



<各付箋の記述内容>



グループ4 未来に羽ばたく子ども・若者を育むまち

第7次羽曳野市総合基本計画策定のための市民ワーキング

未来に羽ばたく子ども・若者を育むまち

アジェンダ1

- 外向きなまちづくり
- 学童保育と児童福祉
- 子育て支援の充実

アジェンダ2

- 子育て支援の充実
- 子育て支援の充実

アジェンダ3

- 子育て支援の充実
- 子育て支援の充実

まとめ

子育て支援の充実

子育て支援の充実

グループ5 魅力発見賑わいと 創造にあふれるまち

第7次羽曳野市総合基本計画策定のための市民ワーキング

グループ5 産業・観光

～賑わいと創造にあふれるまち～

アジェンダ1

- 産業・観光
- 産業・観光

アジェンダ2

- 産業・観光
- 産業・観光

アジェンダ3

- 産業・観光
- 産業・観光

グループ6 歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち

第7次羽曳野市総合基本計画策定のための市民ワーキング

グループ6 歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち

アジェンダ1

- 歴史・文化
- 歴史・文化

アジェンダ2

- 歴史・文化
- 歴史・文化

アジェンダ3

- 歴史・文化
- 歴史・文化

■第2回市民ワーキング

日 時:2025 年2月 15 日(土)14~16 時

場 所:羽曳野市役所会議室

参加者:27 名

①市民ワーキングの概要

第2回市民ワーキングは、第1回市民ワーキングで出た意見をもとに、より市民中心に取組める内容を具体化するための意見交換を行った。



<プログラム>

No.	内容
1.	自分たちで取組めることを改めて精査 ✓ グラフィックレコーディングを見ながら、改めて「自分たちで取組めること」だけを抽出 ✓ 自分たちで取組めることが少ない場合は、改めてできることを考える
2.	「これまでに取組んでいたこと」と「これまでにやったことがないこと」に分類
3.	「これまでに取組んでいたこと」「これまでにやったことがないこと」のうち、重要だと思うテーマをあわせて5つピックアップ
4.	「これまで取組んでいたこと」について ✓ どんなことに取組んでいたか ✓ その課題は何か ⇒それを受けて、今後の10年間で何をすべきか 「これまでにやったことがないこと」について ✓ それをすることで何が達成されるか ✓ はじめにできることは何か
5.	共有に向けたまとめ ✓ 整理した5つの取組みについてまとめ ✓ 発表者を決める(1名でも複数名でもよい)
6.	各グループの発表

②第2回ワーキング結果の取りまとめ

グループ1 快適でうるおいのある住みよいまち

①市民主体で取り組める内容	②具体的な取り組み方法
これまでに取組んでいたこと	今後の10年間で何をすべきか(一部抜粋)
・仲間づくり 発信できるルートをつくる ・羽曳野 Line 公式で相談窓口 ・「役所が身近な存在であってほしい ・空き家バンクの活性化	・公式 LINE からオープンチャットのコミュニティに参加できる仕組みを作る 等
これまでに取組んでいないこと	はじめにできることは何か(一部抜粋)
・市役所前の道の樹木をみんなで決める。 ・野菜(くだもの)を植える(空地活用) ・#9910 普及啓発ポスターをつくる。	＊ワーキングではここには意見が出なかった

グループ2 地域がつながり安全で心安らぐまち

①市民主体で取り組める内容	②具体的な取り組み方法
これまでに取組んでいたこと	今後の10年間で何をすべきか(一部抜粋)
・ゴミの分別、分別の周知 ・町内会の運営 ・地域の見守り隊(登・下校) ・街灯を増やす	・リサイクルを活かしたイベントを行う 例:ペットボトルアートやリサイクル品を使用した遊具で遊ぶ ・町内会のメリットの明確化(市 HP にある冊子を印刷し、公共施設のみならず町内会にも配付) ・ボランティアの周知 ・すきま時間の活用へのアピール
これまでに取組んでいないこと	はじめにできることは何か(一部抜粋)
・防災意識の向上 ・外国人との共生 ・責任の所在の確認(道路等に何かあった際の相談窓口が分からない) ・防犯カメラの設置	・防災用具備蓄の場所・量の把握 ・地区単位での防災訓練(AED、消化器の使い方を知る) ・防災グッズを家庭に置くようにする(具体的に何をどこに置くのがよいのか、知れる場の提供も必要(講習会等)) ・外国人住民に地域のルールを教えるセミナーや教室を開催する 等

グループ3 とともに支え合い健やかに暮らせるまち

①市民主体で取り組める内容	②具体的な取り組み方法
これまでに取組んでいたこと	今後の10年間で何をすべきか(一部抜粋)
・自治会の法人化(羽曳が丘 E&L NPO) ・料理教室、うたごえきっさ、100 才体操 ・障害者の働く場所づくり ・障害者の働く場の相談窓口 ・お金じゃない高齢者の働き方の仕組み(若者との助け合い スマホ教室など)	・収益化による、持続可能な地域コミュニティづくり ・障がいがあっても、羽曳野市内で働ける・生活できるように仕事の選択肢を増やす ・若い人、支え手との接点を増やし支え合えるように ・孤立せず生きるコミュニティ作り ・人と人とのつながりで全部うまく進める 等
これまでに取組んでいないこと	はじめにできることは何か(一部抜粋)
・在宅医療について告知の仕組み(情報発信) ・情報の Map 化 ・市民が書き込む掲示板 ・在宅医療についての市民レポートの作成 ・「最期まで家で」を叶える仕組み	・SNS(X) でつばやく ・在宅医療レポート ・医師会へのはたらきかけ 等

グループ4 未来に羽ばたく子ども・若者を育むまち

①市民主体で取り組める内容	②具体的な取り組み方法
これまでに取組んでいたこと	今後の10年間で何をすべきか(一部抜粋)
・子どもの登下校の見守り活動 ・相談窓口等の虐待やいじめ対策 ・子供会の活動	・朝だけでなく夕方の下校時間も見守りが必要 ・少子化で更なる学校合併が進むことが予測される中で、通学距離が長くなる子どもたちも増えるため、見守りを強化する必要 等
これまでに取組んでいないこと	はじめにできることは何か(一部抜粋)
・ICT を活用した大学生によるひきこもりや不登校の子どもたちへ勉強指導 ・多世代交流(地域の老人会や大学生など)による外で遊ぶ機会の創出 ・PTA 活動のハイブリット化(現地開催とオンライン) ・子どもたちとの共同まちづくり	・大学の地域連携(羽曳野市×藤井寺市×四天王寺大学の地域連携学生企画プロジェクト)に申し込む ・安全面の観点から、放課後の校内で実施する ・ボール遊びであれば比較的安全なドッジボール、長縄などから始める ・PTA はコロナ禍を経て整った WEB 環境を活用 等

グループ5 魅力発見 賑わいと 創造にあふれるまち

①市民主体で取り組める内容	②具体的な取り組み方法
これまでに取組んでいないこと	はじめにできることは何か(一部抜粋)
・市民と行政の共催によるイベントの開催 ・空き店舗活用による市民交流拠点の開設 ・市民との協働による特産品の掘り起こし・PR	・実行委員会の設立(市民団体、企業、行政等で構成) ・資金調達のための市内事業者等との連携強化 ・イベントプログラムの企画(商店街等による既存イベントとの融合、市の特色を活かせるコンテンツの検討(遊休農地の利活用)等) ・活動方針・ビジョンの明確化(交流拠点の目的、提供する価値、目指す姿の明確化、関係者間での共有) ・地域資源の棚卸し(市民目線による特産品の洗い出し、重点 PR 商品の選定) ・特産品の生産者・販売者からの協力の取り付けと新製品開発 ・対外的な PR 手法の検討(若年層向けの SNS を主軸に発信) 等

*市内でのこれまでの取組に対する参加者の認識が薄く、取組んでいないことに議論が集中

グループ6 歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち

①市民主体で取り組める内容	②具体的な取り組み方法
これまでに取組んでいたこと	今後の10年間で何をすべきか(一部抜粋)
・近畿日本鉄道(近鉄)の古市駅の駅名変更に向けた取組 ・歴史(古墳)のまちのアピール	・駅名変更に係る費用を集めるためにクラウドファンディングを実施 ・市民主体のツアー実施に向けて、歴史文化のアーカイブ化、古墳のコンテンツ化 ・歴史文化に関するコンテンツを相互発信できるプラットフォームをつくる 等
これまでに取組んでいないこと	はじめにできることは何か(一部抜粋)
・学びのサイクル化と人材活用の出口づくり ・周辺地域との連携 ・地域イベントに参加でポイントが貯まるシステム	・市民大学の認知度 UP として、お試し事業の WEB 配信 ・大人に限らず子どもたちにも学校以外の学びの場をつくる ・周辺地域と古墳連合をつくり、歴史をテーマにしたイベントや体育大会を企画する ・貯まったポイントを地域のお店で使えるようにすることで、地域経済の発展、活性化 等